

ORGAN ROOMS PROJECT 賛同医師のための会報誌

MONTHLY *Letter*

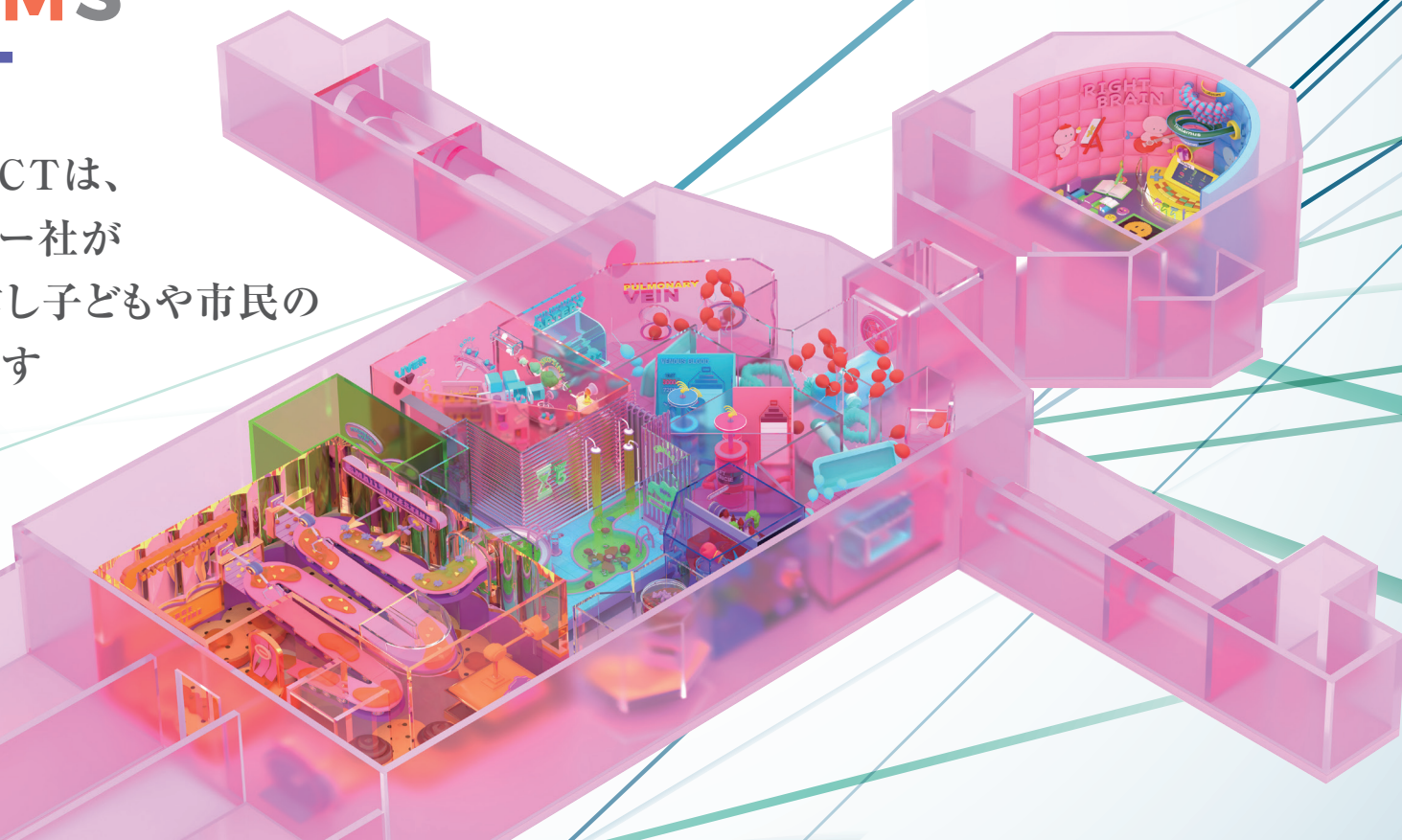
Vol.
4

ORGAN ROOMS PROJECT

ORGAN ROOMS PROJECTは、
医学出版社 メディカルレビュー社が
医学情報をわかりやすく発信し子どもや市民の
健康リテラシーを育む活動です



MEDICAL REVIEW
PUBLISHING



DOCTOR'S Voice

私が伝えたい、健康リテラシー・疾患啓発の大切さ



八田 稔久 先生
金沢医科大学医学部解剖学I 教授



骨が見えた!

透明化技術「RAP-B法」がつなぐ研究と教育

RAP-B法の開発と次世代への教育的展開

ヒトの体には、成人で約206本の骨が存在します。骨を観察するために体を透明にするには、ふつう何週間もかけた特別な処理が必要です。この課題を解決するため、私たちの研究室では新たな迅速組織透明化技術「RAP-B法 (rapid bone staining)」を開発しました。本法によりカエルや魚の体をわずか数日で完全に透明にでき、骨だけでなく心臓・肝臓・胃腸などの内臓も透き通ります。透明化された骨格が浮かび上がる様子は、まるでアート作品のようです。

本研究成果は、科研費研究の成果を小・中・高校生が体験して科学に触れる「ひらめき☆ときめきサイエンス」(日本学術

振興会)に採択され、金沢医科大学八田研究室では、小学5・6年生を対象とした体験プログラム『からだを透かして見てみようー透明人間できるかな?ー』を継続的に10年以上開催してきました。魚とカエルとヒトの骨格を見比べ「なぜ形が違うの?」「この骨は何のため?」と問いを立て、観察・発見・考察を繰り返し、科学の楽しさを子どもに体感してもらっています。

また、科学教育の普及活動の一環として2024年より全国で本



RAP-B法で透明化したカエルの骨格標本

骨が見えた!

透明化技術「RAP-B法」がつなぐ研究と教育

体験プログラムを実施しており、2026年は船橋市、金沢市、新潟市、出雲市で開催します。

胎児安全性評価の革新と医学研究の使命

現在、医薬品の胎児毒性評価における骨格検査は、ラットモデルで約1ヵ月かかります。私たちはRAP-B法を改良し、胎児骨格検査を短縮・簡便化する新技術の開発に挑戦中で、将来は国際標準のprotocolsとして国際的指針への採用を目指しています。

胎児安全性評価の重要性は、1950～60年代に鎮静・睡眠薬として用いられたサリドマイドによる薬害が象徴的です。妊婦への投与により、わが国を含む世界中で数千人以上の胎児に死産、四肢形成異常、聴覚障害などが生じ、医薬品開発における催奇形性の考え方を根本から変えました。一方、現

在ではサリドマイドは多発性骨髄腫やハンセン病の治療薬として、厳格な管理のもと再び有効性が期待されています。

薬剤は使い方次第で、毒にも薬にもなりえます。だからこそ私たちは、あらゆる薬剤の胎児への影響を正確かつ迅速に評価する技術を磨かなければなりません。本研究が発生毒性評価の効率化や薬品の安全性試験などに寄与できれば、研究者としてこれに勝る喜びはありません。

略歴 | 八田 稔久 (Toshihisa Hatta)

- 1989年 島根医科大学 卒業
- 2002年 島根大学医学部 助教授
- 2007年 金沢医科大学医学部解剖学I 教授
内閣府食品安全委員会専門委員(生殖発生毒性)

ACTIONS, Shared

実践で広がる健康リテラシー



高増 哲也 先生

神奈川県立こども医療センター
アレルギー科医長、
地域連携・家族支援局長、
食のサポート推進室長



「アレルギー児サマーキャンプ」 小学生と医療ボランティアで2泊3日を過ごす

50年続くアレルギー児サマーキャンプ

「アレルギー児サマーキャンプ」は、アレルギーのある小学生が自宅から離れて、2泊3日をともにすることで、自立のきっかけとすることを旨とする行事です。1974年に「喘息児サマーキャンプ」として開始され、当時は神奈川県立こども医療センターが主催する行事でしたが、2011年からはボランティアによる運営となり、小学生なら誰でも参加できる行事として、毎年欠かさず開催されています。

運動会、野外炊事、すいか割り、キャンドルファイヤーなど、盛りだくさんの行事が行われ、アレルギー学習会は自分自身を振り返る時間でもあります。ボランティアは医療職（医師、看護師、薬

剤師、管理栄養士、歯科衛生士）や教員、その他の社会人、学生が多数かかわっています。



薪で火を起し、野菜を切り、みんなで協力してカレーライスを作ります。おいしく食べた後は後片付けもみんなで行います。カレーのルーは食物アレルギーのこどもに考慮したルーを使用します。



「アレルギー児サマーキャンプ」のようす

低学年、高学年に分かれてアレルギー学習会を行います。低学年はゲームやレクリエーションを通じてアレルギーについて学習します。高学年は学習会を通して自分自身でアレルギーの管理ができるようになることを目指します。

「アレルギー児サマーキャンプ」 小学生と医療ボランティアで2泊3日を過ごす

ACTIONS, Shared

実践で広がる健康リテラシー

自立を育む2泊3日

最近では、参加する児童の大部分に食物アレルギーがありますが、食事の時間もみんなですべて不自由なく過ごせます。また、発達障害があつて集団行動が苦手な児童も、本行事では無理なく過ごせています。参加した児童は、短期間で見ちがえるように成長し、大人になってからボランティアとして戻ってくることも少なくありません。

今年の「アレルギー児サマーキャンプ」は2026年8月21日(金)～23日(日)に開催されます。現在、申し込みを受け付けているので、アレルギーの児童(喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど)がいらっしゃいましたら、ぜひ紹介していただければと思います。



「アレルギー児サマーキャンプ」の
集合写真

アレルギー児サマーキャンプ2026 開催のご案内

申し込み締切:2026年7月14日(火)

対象:アレルギーをもつ児童(喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど)

説明会:2026年8月8日(土)

開催日時:2026年8月21日(金)～23日(日)

開催場所:三浦YMCAグローバル・エコ・ビレッジ(神奈川県三浦市初声町和田3136)

集合:神奈川県立こども医療センター 体育館(神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4)

参加費:こども 29,000円

<https://allergycamp.com/>

※ ボランティアの応募も受け付けています。詳細はホームページをご覧ください
(ボランティア参加費:社会人12,000円、学生7,000円)

略歴 | 高増 哲也 (Tetsuya Takamasu)

1989年 広島大学医学部医学科 卒業

1999年 神奈川県立こども医療センターアレルギー科 医長

2026年 神奈川県立こども医療センター地域連携・家族支援局長、
食のサポート推進室長



「SENDA/BPAN」 鉄代謝異常症

特徴的な二相性の臨床経過

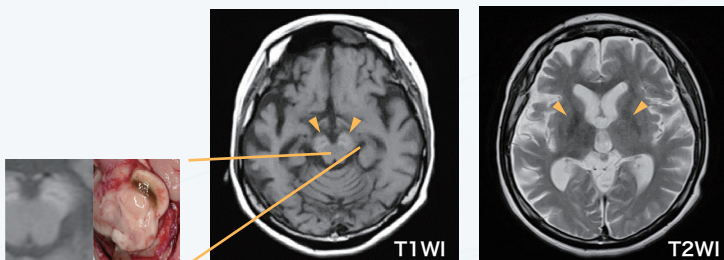
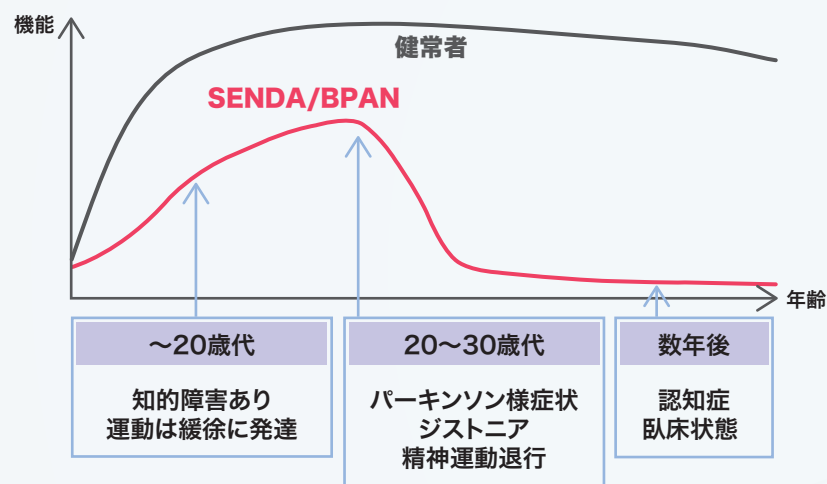
Static encephalopathy of childhood with neurodegeneration in adulthood (SENDA) / β -propeller protein-associated neurodegeneration (BPAN) は小児期に知的障害と運動発達の遅れ、成人期にパーキンソン様症状やジストニアなど運動障害を呈し、数年で認知機能障害を伴い臥床状態となる神経変性疾患です。指定難病の「脳内鉄沈着を伴う神経変症 (Neurodegeneration with brain iron accumulation: NBIA)」、小児慢性特定疾病の「WDR45関連神経変性症」に該当します。

病態: フェリチン分解の障害

原因遺伝子のWDR45 (X染色体上) は、オートファジーに重要な分子WIPI4をコードします。オートファジーとは細胞内の不要なタンパクなどをリソソームで分解する機構ですが、WIPI4はフェリチン特異的なオートファジーで重要な働きをします。本症では、鉄を貯蔵するフェリチンが適切に分解されず、鉄とともに細胞内に過剰に蓄積します。この鉄の利用障害が病態の本質と考えられています。

「SENDA/BPAN」 鉄代謝異常症

SENDA/BPANの臨床経過



(著者作成)

診断のポイントと最新トピック

診断には脳MRIが有用で、T2*強調画像や磁化率強調画像(Susceptibility-Weighted Imaging:SWI)では、2歳頃から黒質や淡蒼球に鉄沈着を認めます。また、小児期脳波の高振幅速波は、本症を疑う重要な手がかりです。2024年にはWDR45遺伝子検査が保険収載されました。新規治療法の開発も進んでおり、早期診断と専門医への紹介が望まれます。

略歴 | 月田 貴和子 (Kiwako Tsukida)

- 2013年 群馬大学医学部医学科 卒業
- 2022年 自治医科大学大学院 博士課程 修了
- 2021年 日本学術振興会 特別研究員 (DC2)
- 2022年 自治医科大学大学院 博士課程 修了
- 2023年 自治医科大学小児科学
- 2024年 自治医科大学遺伝子細胞治療センター/小児科学 特命助教



日常診療に役立つ 疾患情報サイトのご案内

気になる症状や疾患名から情報が探せるウェブサイト。
対象：一般の方



見る+知る 疾患情報サイト

メディシル

患者さんへのご説明に！ 見る+知る疾患情報サイト



「見る+知る疾患情報サイト
メディシル」は、気になる症状
や疾患名から情報が探せる
一般向けの疾患情報サイト。

特に希少疾患や難病などにつ
いて、一般の方にも分かりやすく
興味を持ってご覧いただけるよ
う、解説動画を掲載しています。



患者さんやご家族の疾患理解
を深めるツールとして、また日々
の診療でのご説明にもご活用
いただけます。



下記をクリック



「メディシル」の公式サイトへ遷移します

運営：株式会社インターサイエンス社
URL：<https://www.medicil.jp/>
対象：患者さん・ご家族・医療者
利用料：無料

ORGAN ROOMS PROJECT

公式サイト掲載インタビュー記事のご案内

エキスパート医師に健康の大切さについてお話しいただき、インタビュー記事を公開しています。

読者対象：医療職者等から一般の方まで閲覧

健康を「求めすぎる」時代に、医療は何を担うのか



中原 仁 先生

慶應義塾大学医学部神経内科 教授

人は誰も老い、やがて死を迎える存在です。その前提に立ち、人それぞれの違いを受け入れる視点こそが、真の意味での健康につながるのではないかと。本インタビューでは、健康リテラシーとどう向き合っていくべきか、中原先生のお考えを伺いました。

試し読み

健康リテラシーは知識量の問題として語られることが多いですが、神経疾患において、どのような視点が重要になるのでしょうか。

とりわけ神経疾患においては、「知ること」が必ずしも安心につながるとは限りません。知識は本来、判断を支えるためのものですが、不確実性への理解を伴わなければ、かえって判断を難しくする可能性があります。したがって健康リテラシーは、単に知識量を増やすことではなく、情報との距離の取り方や、不確実な状況をどのように受け止めるかという姿勢を含めて捉える必要があります。

予後の見通しや治療選択に限界が存在する神経疾患領域においては、「情報を理解する力」に加えて、「不確実性を受容する力」や「情報と適切な距離を保つ姿勢」が重要な構成要素となると考えています。



記事全文はこちらを
クリック



記事を読む



ORGAN ROOMS PROJECT公式
WEBサイトへ遷移します

ORGAN ROOMS PROJECT

活動レポート

第129回 日本小児科学会学術集会

会頭:長谷川 俊史 先生(山口大学大学院医学系研究科小児科学講座 教授)
 テーマ:No dream, No success みんなで創る夢のある小児医療
 会期:2026年4月17日(金)~19日(日)
 場所:山口県下関市(海峡メッセ下関、下関市生涯学習プラザ、下関グランドホテル、下関市民会館)
 主催:日本小児科学会

ブース出展のようす



- ORGAN ROOMS PROJECTの活動について、パネル掲示、動画放映などで学会への来場者(医師など医療職者)にご紹介しました。
- ORGAN ROOMS PROJECTの活動に共感いただき、賛同医として登録する希望があればご案内しました。

第129回 The 129th Annual Meeting of the Japan Pediatric Society
日本小児科学会学術集会
No dream, No success!
 みんなで創る夢のある小児医療
 2026
 4/17(Fri) - 19(Sun)
 山口県下関市
 会場 海峡メッセ下関
 下関市生涯学習プラザ
 下関グランドホテル
 下関市民会館

会頭 長谷川 俊史
山口大学大学院医学系研究科小児科学講座 教授
 副会頭 日下 隆
香川大学医学部 小児科学講座
 副会頭 江口 真理子
愛媛大学大学院医学系研究科 小児科学講座

HOME
 WEB配信特設サイト
 抄録集アプリ
 会頭挨拶
 開催概要
 参加登録
 参加者へのご案内
 演題募集

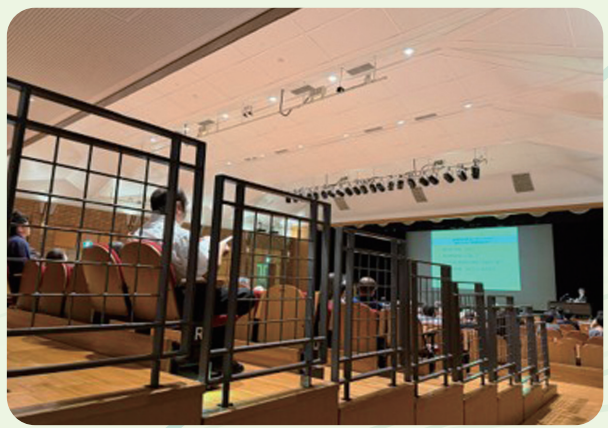
ORGAN ROOMS PROJECT

活動レポート 第67回 日本神経学会学術大会 市民公開講座

会頭: 西山 和利先生 (北里大学医学部脳神経内科学 主任教授)
 テーマ: みんなで知ろう脳神経内科～頭痛・パーキンソン病・認知症、未来へむけて～
 会期: 2026年5月24日(日)
 場所: はまぎんホール(ヴィアマール) (神奈川県横浜市)
 主催: 第67回 日本神経学会学術大会、一般社団法人日本神経学会



ブース出展・会場のようす



● ORGAN ROOMS PROJECTの活動について、SNS、動画、知育絵本などをご覧いただき、市民公開講座へ訪れた一般の方や医療職者に紹介しました。



第67回 日本神経学会学術大会 市民公開講座

みんなで知ろう 脳神経内科

～頭痛・パーキンソン病・認知症、未来へむけて～

日時 2026年5月24日(日) 13:00～15:35

会場 はまぎんホール(ヴィアマール) 〒220-0012神奈川県横浜市みなとみらい3丁目1-1

参加無料
定員400名
事前申し込み制
HPよりお申込み

開会の挨拶	西山 和利 (北里大学医学部脳神経内科学 主任教授)
第1部 13:00～14:10	<p>座長 齋藤 高浩 (北里大学医学部脳神経内科学 教授兼部長)</p> <p>講演1 「脳神経内科をご存じですか ～脳卒中から神経難病まで～」 西山 和利 (北里大学医学部脳神経内科学 主任教授)</p> <p>講演2 「ここまで来た、頭痛の予防と治療」 永田 栄一郎 (東京大学医学部脳神経内科 部長兼主任、教授)</p>
第2部 14:20～15:35	<p>座長 金子 淳太郎 (北里大学医学部脳神経内科学 教授兼部長)</p> <p>講演3 「パーキンソン病と共に歩むために：最新診療と日常生活のサポート」 白石 眞 (慶応義塾大学医学部脳神経内科学 教授)</p> <p>講演4 「発展著しい認知症の治療」 土井 宏 (横浜市立大学神経内科 - 脳卒中医学 准教授)</p>
閉会の挨拶	西山 和利 (北里大学医学部脳神経内科学 主任教授)

主催 第67回日本神経学会学術大会、一般社団法人日本神経学会
 企画 第67回日本神経学会学術大会(大会長:西山和利 北里大学)
 共催 神奈川県・公益社団法人神奈川県医師会、一般社団法人横浜市医師会、一般社団法人横浜脳神経学会、社会福祉法人神奈川福祉会、社会福祉法人神奈川福祉会、社会福祉法人横浜福祉会、公益社団法人のびのび健康福祉財団、公益社団法人日本脳卒中協会、日本脳神経内科学会、日本神経学会、日本神経学会学術大会 運営事務局
 後援 東京医科大学、東京女子医科大学、慶応義塾大学、横浜市立大学、北里大学、日本神経学会学術大会 運営事務局
 問い合わせ先 第67回日本神経学会学術大会 運営事務局
 電話 03-5466-1111 FAX 03-5466-1112
 E-MAIL: info@jns.or.jp

ORGAN ROOMS PROJECT

活動レポート 第19回 Sakuraの会 in 横浜市開港記念会館

会期: 2026年5月30日(土)~31日(日)
 場所: 横浜市開港記念会館(神奈川県横浜市)
 主催: 一般社団法人 Sakura Network Japan(代表理事: 坪井一哉先生/名古屋セントラル病院)
 後援: 厚生労働省、神奈川県、横浜市健康福祉局、神奈川県看護協会、神奈川県医師会、横浜市医師会
 内容: ライソゾーム病などの希少難病の患者さんの支援・疾患啓発、患者さんと社会をつなぐネットワークとして、Sakura Network Japanが毎年開催するイベント。



クイズラリー

ミッション① おそうじロボットが働けない!

はたらき
おそうじロボットが働けない!
そうじ道具がない!
なにをわたす?

A 酵素(こうそ) B きんにく C ほね

かいせつ
ライソゾーム病

ライソゾーム病は細胞の中の「おそうじ係」、酵素(こうそ)を使って不要物を分解します。生まれつき酵素が少ないと、細胞中に不要物がたまり「ライソゾーム病」という病気をひき起こします。「ライソゾーム病」は、不足する酵素によって、ポンペ病、ファブリー病、ムコ多糖症などを数十種類に区別されます。



- ORGAN ROOMS PROJECTの活動について、SNS、動画、知育絵本などをご覧いただき、一般の方や医療職者に紹介しました。
- ライソゾーム病を学ぶオリジナルクイズラリー「おそうじロボット」
- ORGAN ROOMS のアート作品を使ってガス交換を学ぶ「肺ゲーム」
- 指先を使った作業で脳を刺激する「ビーズプレスレット」制作体験
- 着ぐるみ「のうポン」登場!

ブースのようす



肺ゲーム



第19回 Sakuraの会 in 横浜市開港記念会館

日時: 2026年5月30日(土)10時 開演: 31日(日)16時00分 閉会
 会場: 横浜市開港記念会館 講堂、会議室

参加: 無料

プログラム:

5月30日(土) (講演)

講演の場
 古賀正太郎(慶応義塾大学 脳神経外科 脳神経科 脳神経科)
 一田 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 日村 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 古賀正太郎(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)

講演者: 古賀正太郎(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科 脳神経科)
 一田 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 日村 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)

5月31日(日) (講演)

講演の場
 古賀正太郎(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 一田 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 日村 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)

講演者: 古賀正太郎(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 一田 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 日村 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)

5月31日(日) (講演)

講演の場
 古賀正太郎(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 一田 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 日村 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)

講演者: 古賀正太郎(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 一田 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)
 日村 隆(慶応義塾大学 脳神経科 脳神経科)



ORGAN ROOMS PROJECT

SNS配信



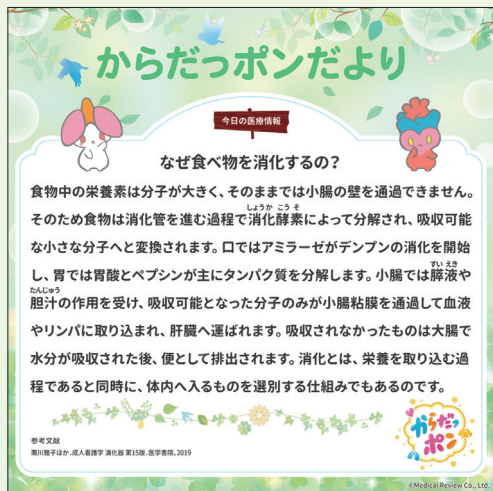
公式LINE からだっポンだより

一般向け

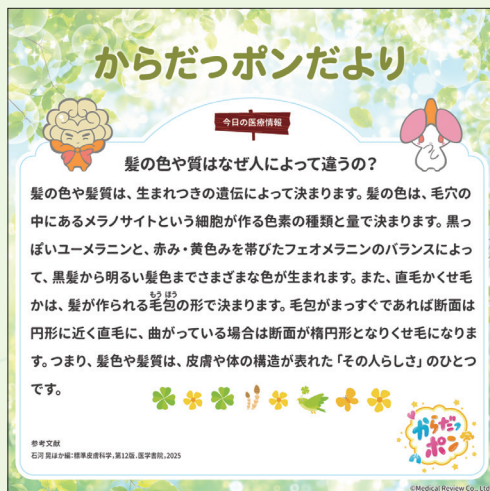
からだっポンから、カラダ情報&クイズが隔週で届きます。

配信対象:LINE友だち登録をした方

LINE友だち登録者数:10,123件(2026年5月現在)



2026年4月18日にLINE配信



2026年5月16日にLINE配信

公式動画 おしえて!からだっポン

一般向け

子どもがカラダに関心をもつきっかけとなる楽しい動画をSNS配信。

視聴対象:未就学児~小学生および保護者



下記をクリック

各SNSの
ORGAN ROOMS PROJECT
ページへ遷移します



You Tubeで視聴



Instagramで視聴



TIKTOKで視聴



ORGAN ROOMS PROJECT MONTHLY Letter VOL.4

2026年6月16日 配信

【編集後記】

本号で先生方にご執筆いただいた、RAP-B法を胎児骨格検査へつなぐ研究、アレルギー児のサマーキャンプ、鉄代謝異常症。一見すると接点のない3つの話題ですが、いずれも「見えにくいものをいかに丁寧に見ていくか」という共通の姿勢に貫かれています。胎児骨格検査は、生まれる前の小さな体に刻まれた情報を読み解く緻密な作業であり、新たな手法はその精度をさらに高めてくれます。鉄代謝異常症もまた、ありふれた症状の陰に隠れた本質を見抜く眼を必要とします。そこに光を当てる意義は大きいでしょう。一方、アレルギー児のサマーキャンプの記事には、検査値だけでは測れない子どもたちの笑顔と成長がありました。慣れない環境のなかで仲間とともに過ごす時間が、医療の枠を超えた支えになっていることを教えてください。医療は数字を追うだけでなく、その先にいる一人ひとりの暮らしを支える営みなのだとあらためて感じました。専門性を深めながらも目の前の患者さんへまなざしを向け続けたい、本号がその思いの一助となれば幸いです。

(メディカルレビュー社 代表取締役 松岡武志)



子ども・市民への啓発活動について
先生のご意見をお待ちしています

下記をクリック

ご意見はこちら



編集：『ORGAN ROOMS PROJECT』運営事務局

発行者：松岡武志

発行所：株式会社メディカルレビュー社

東京本社：〒113-0034 東京都文京区湯島3-19-11 湯島ファーストビル
TEL03-3835-3041(代)

大阪本社：〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町3-2-8 淀屋橋MIビル
TEL06-6223-1468(代)

メディカルレビュー社 公式WEBサイト：<https://m-review.co.jp/>

ORGAN ROOMS PROJECT 公式WEBサイト：<https://organrooms.com/>

お問い合わせ：ORP_contact@m-review.co.jp